

将来の自分へのメッセージ

白河市立白河第二中学校 3年 小針 萌詩

将来の私、元気になっていますか。「東日本大震災」が起きた3月11日、あなたはまだ2歳でしたね。2時46分、母と兄とおでかけにいったあなたは、生まれて初めての大きな地震に動けなくなっていました。母と兄の手を強く握り、建物の外へと飛び出したあの時、外はいつもの光景とは、全く違っていました。

あれから12年、私は震災のことを色々学んだよ。震災のこと、その後に起きた原子力災害のこと、そして現在でも震災や原子力での被害で苦しんでいる人達のこと。あの時、わからなかったことが12年間を通して、理解することができました。これからの福島には、乗り越えなくてはいけないことが沢山あります。それでも前を向いて、未来のために私ができることを精一杯、取り組んでいきます。

将来の自分へのメッセージ

白河市立白河第二中学校 1年 村田 彩寧

13年前の私は生後約9か月。3月11日に起こった東日本大震災のことは全く覚えていません。でも、家の壁には小さなひびがあります。キッチンの棚もそのときに欠けたり、ガラスの部分が割れたりしたそうです。今、私が生きて、この手紙を書くことができるのは私の大好きな家と、父、母、兄が守ってくれたから。それを絶対に忘れないでほしい。

7年後の私は20歳です。看護師になるための勉強をしていると思います。誰かのために、最終的には福島のためになることを進んでできる大人になってください。

東日本大震災から20年が経過したとき、今度は、大人になった私が誰かを守り、誰かの支えになってください。

将来の自分へのメッセージ

白河市立白河第二中学校 1年 國分 聡太

僕は福島県で教員になりたいと思っている。その理由の1つに、福島に大きな影響をもたらした東日本大震災での被害をこれを知らない後世の子供達に伝えていきたいと思っている。そんな夢を見ている今の自分から将来の自分へメッセージがある。「福島で教員になれましたか？そしてしっかり震災であった悲惨な出来事を伝え、少しでも多くの命を助けられていますか？この人災は一人一人の行動で変えられる。命を守れるということを伝えられていますか？福島で生まれ、育ったということを忘れず、震災のことを伝え続け、がんばって下さい。」この福島で生まれ育ったこの恩を少しずつ返していきたいと思う。

将来の自分へのメッセージ

福島県立ふたば未来学園中学校 3年 室井 珀

2011年の東日本大震災により、当時2歳だった私は住んでいた富岡町から避難をせざるを得なくなりました。そして今まで身内が家を修復したり、復興関連のイベントにたずさわってきたのをたくさん見てきました。未来の私は、その事やその光景を忘れずにしっかり覚えてますか。また、何か自分が福島のためにできることをしていますか。今15歳の私から言いたいことは、決してこの事を他人事として見てほしくないということです。未来の自分には故郷を想って、少しでも町のために行動してほしく思います。15歳の私は少なくとも今やれることはやっています。未来の私はもっとできることが増えていることでしょうか。だから母や父などのように町を思い行動し続ける人になってください。

将来の自分へのメッセージ

福島県立ふたば未来学園中学校 3年 久野 麗

東日本大震災・原発事故の伝承館へ行き震災について知った。今まで小学生のときなどは毎年3月11日には追悼式などを行ったり、親から聞いたりしてある程度の知識は持っていると思っていた。しかし、実際は悲惨さなどが理解できておらず、ただの知識だけだったと伝承館へ行って知った。それは実際の被害の物品や映像を見て悲惨さを理解することができたからだ。伝承館での資料で一番心に残っているのは避難区域内にある病院の医療スタッフや患者さんの話だ。避難区域に指定されてもすぐに避難できない患者さんが避難するまでつきそう医療スタッフの精神に憧れた。私はもともと医師になりたいと思っていたが、伝承館へ行き彼らのように患者さん第一に考えられる医師になると強く思った。